

対談市町名	対談項目	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
20 玉城町	対談項目1 子どもたちの新しい豊かさの協創について	現状と課題について	<ul style="list-style-type: none"> ・玉城町は、一昨年度に学力向上協議会を立ち上げ、活用力の向上学習を推進し、教員達が授業を見せ合い、指導の仕方等を勉強しており、教員の意識改革が進んできたところです。 ・土曜授業も、玉城町が三重県で最初に始め、今では、三重県全体に広まったと聞いています。 ・今年、全国学力・学習状況調査で理科が調査対象になったが、実験等もあり、指導方法が難しいと感じています。 ・県内の企業等も支援をしていただいて、理科の好きな子どもを育てていきたいと考えています。 ・レゴブロックを活用した英語の授業は、子どもたちが楽しんで受けており、昨年度までは5、6年生だけだったが、今年度からは1年生まで拡充をしました。 ・色々な授業の工夫をしながら、地域のみなさんの理解をいただき、基礎学力の向上を目指していきたいと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玉城町は、県の事業を積極的に活用され、成果をあげていただいていることに感謝いたします。 ・全国学力・学習状況調査では、積極的な取組をしていただいて、2年連続で、特に中学校に成果が現れており、県下でもトップレベルで成績が伸びています。 ・土曜授業も、昨年度、玉城町が先駆けて月1回始めていただいたおかげで、今年度は県内全市町が取組を始めていただきました。全国的にも、全市町が実施しているところの方が少ない中、玉城町が先導的に取り組んでいただいたことに感謝いたします。 ・また、アンケートでも、保護者の7割がこの土曜授業の取組をよかったと評価されているので、これからも県内で改善を進めながら取り組んでいきます。 ・教育についても、人生のうち学校にいる時間は約2割しかなく、残りの時間は学校以外で過ごしていると言われていているなか、家庭・地域で子供を育てていくことが大事と考えています。 ・今年8月にあった全国学力・学習状況調査の中で、三重県の子供たちはテレビやスマートフォンを触っている時間が全国平均よりも長いことが分かりました。三重県では、家庭での時間の過ごし方に課題があると言えると思います。 ・教育経済学の中では、アウトプット(結果・点数)よりもプロセス(途中・頑張り)を褒めると子供の学習意欲が上がり、成績もあがるとの研究結果もあります。家庭で、ぜひそのような取組をしてもらえればと思っています。
玉城町	対談項目1 子どもたちの新しい豊かさの協創について	小学校英語活動について		<ul style="list-style-type: none"> ・レゴブロックを活用した英語の授業も、昨年度、玉城町と、津市、鈴鹿市が県内で先進的に始めていただきました。 ・英語はコミュニケーション能力を高め、言語発達能力を高めるきっかけとなるため、国語をしてから英語をやるのではなく、英語と国語を同時に取り組んでいくことが、国語の力も高めることに繋がると言われています。 ・玉城町も、レゴブロックを活用した授業をするようになって、全国学力・学習状況調査でも県下でよい成績を収めていただきました。 ・近々、県の教育委員も玉城町に視察に行かせていただく予定なので、よろしくをお願いします。
玉城町	対談項目1 子どもたちの新しい豊かさの協創について	理科を楽しく学び伸ばしていく教育の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・今回の全国学力・学習状況調査では、全県的に成績が伸びましたが、理科だけ全県的に成績が振るいませんでした。 ・先生たちで授業自体を改善していく研究会等を県も支援していき、また、今回の全国学力・学習状況調査の結果も分析していきます。 ・子どもたちに理科を楽しんでもらうための取組として、総合博物館に校外学習として玉城町の3つの小学校に来てもらい、体験学習やフィールドワークをしていただきました。 ・県は、他にも、子ども達が理科を楽しんでもらえるよう、Mie SSH指定校の高校生が企画する小中学生向けの理科教室や、皇學館大学の学生による理科の出前授業等を実施しています。 ・今後も、先生方の授業改善に向けたサポートと、子どもたちが理科を楽しんでもらうような仕掛けを積極的に取り組んでいきます。
玉城町	対談項目1 子どもたちの新しい豊かさの協創について	文化・芸術に優れた小中学生の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・芸術や文化に秀でた人材を地域で活躍できるしくみを作っていかなければいけないと思っています。 ・文化振興のために県が一番に取り組むべき課題として、「人材育成」を掲げ、例えばプロのアーティストを学校に派遣して、文化に触れてもらうような取組もしっかりとやっていきます。
玉城町	対談項目1 子どもたちの新しい豊かさの協創について	スポーツにも優れた小中学生の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・平成33年に国体と障害者スポーツ大会もあることから、今年度から、スポーツでの人材育成についても取り組んでいるところです。スポーツ選手も働きながらスポーツで活躍していけるような取組をやっていきます。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
玉城町	対談項目2 若者の流出防止及びUIJターン対策について	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・町で生まれ育った若者の人口流出をなんとか防ぎたいと思っています。 ・なぜ進学、就職で県外へ出ていくのか、県内出身の大学生に対するアンケート調査でその動機、動向を分析して、若者の定住、UIJターンに繋がるような取組を県でぜひやっていただいで、地域の将来に繋げていきたいと思っています。 ・最近「子ども議会」を開催しました。その中で、10年、20年後のまちのあるべき姿について聞いたところ、「人々の助け合いがあるまち」や「豊かな自然が残っているまち」等の意見があり、また、全員の子供が将来もこのまちに住み続けたいとの意見でした。 ・後に繋がるような施策を、高校や大学、地域の企業と連携しながらやっていきたいと思っています。 ・学校・家庭・地域の連携が大事で、地域のつながりの豊かさが学力を育むとも言われています。 ・町として、文武両道のまちづくりをこれからも大事にしていきたいと思っています。 ・かつてあった地域のつながりがなくなっているため、地域の互助の気持ちを育んでいくような取組をやっていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23～26年度において、県内の高校を卒業した大学進学者のうち、県内への進学率は19.9%、80.1%は県外（内訳は、愛知県38.4%、関西2府4県21.3%、関東1都3県9.8%、その他10.6%）へ進学しており、大変厳しい状況にあります。 ・同期間で、県内の高校を卒業した就職者のうち、県外就職者は11.6%、県内就職者は88.4%でした。 ・三重大学で今年3月の卒業者を対象にした調査では、県出身者が40.7%でありながら、地元企業への就職率は33.4%となっており、大学生の就職時でも県外流出が起きています。 ・進学時、就職時にいかに三重県に魅力を感じてもらうか、またUIJターンでもう一度戻ってきてもらうかといった取組が大変重要です。 ・企業の調査によると、県外に進学した県出身者のうち、地元での就職を希望する学生は52.2%（希望するは28.3%、どちらかという希望するは23.9%）でした。 ・学生が地元企業の情報を得る手段としては、インターネットが多いため、インターネットで企業の情報提供をしっかりとっていくことが大事であり、今年度は特に中小企業について、県外に行った人しっかりと情報提供できるよう取り組んでいます
玉城町	対談項目2 若者の流出防止及びUIJターン対策について	大学に対する情報提供等の拡充		<ul style="list-style-type: none"> ・三重県出身者が多い大学に働きかけ、地元の企業の情報提供ができるよう、関西圏の大学を中心に協定を結んでいきます。 ・毎年、約8000人の県内出身者が大学に進学するのに対し、県内の大学の定員は3000人程度しかなく、大学収容力は全国で46位とかなり低い状況です。かと言って、これから人口が減少していく中、大学を作っても経営が成り立ちません。 ・今ある大学をいかに魅力的にしていけるか、大学の良さを伝えていくことが先決で、大学関係者と協議をしているところです。
玉城町	対談項目2 若者の流出防止及びUIJターン対策について	U・Iターン対策について		<ul style="list-style-type: none"> ・高校2年生にアンケートを取ったところ、「進学の際に相談する相手は？」の問いに対し、1位は母親、2位は先生でした。母親にも県内の大学の良さを知ってもらえるような情報提供をしていくことも大学関係者と話をしているところです。 ・進学で県外に行ったとしても、また帰ってきたいという気持ちになってもらうことも大事です。そのためにも働く場があることが大事で、今ある働く場の魅力を伝えたり、働く場を作りながら、そういった情報を伝えていくような取組を進めていきます。 ・ホームランは難しいが、ヒットを積み重ねて、子供たちや若者がUIJターンで地域に戻ってきてもらえるような場づくりをしていきたいと思っています。
玉城町	対談項目2 若者の流出防止及びUIJターン対策について	高校生・保護者アンケートについて		<ul style="list-style-type: none"> ・高校生アンケート結果では、8割の生徒が最終的には地元に戻りたいと言ってくれています。その理由としては、特にないが愛着があるからとの回答でした。 ・小学校や中学校の時に、郷土教育をしっかりとやっていくことが大事です。